

At a Glance (データは2025年度または2026年3月末時点)

設立

1958年

連結子会社

34社

従業員数

8,801人

エンジニア数

5,220人

売上収益

4,337億円

前年度比 +7.3%

営業利益

426億円

前年度比 +9.1%

親会社の所有者に帰属する当期利益

312億円

前年度比 +15.7%

営業キャッシュ・フロー

576億円

前年度比 +126億円

ROE

17.9%

前年度比 +1.8pt

年間配当額

126億円

(1株当たり130円)

前年度比 +18億円 (1株当たり+20円)

親会社所有者帰属持分比率

47.0%

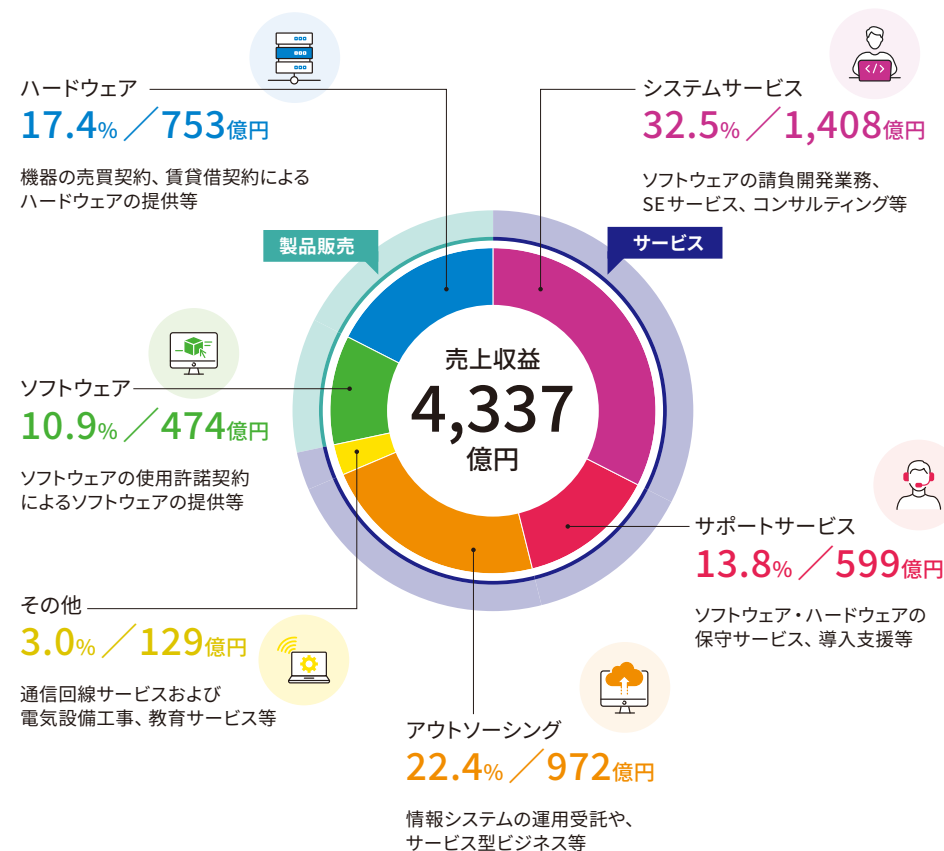
前年度末比 △4.1pt

発行体格付※

A-

※ (株) 格付投資情報センター (R&I)

セグメント別売上収益



BIPROGYグループの強み 真摯さに裏付けられた“実践力”～やり抜く力～

さまざまな業界の 顧客・パートナーとの リレーションシップ

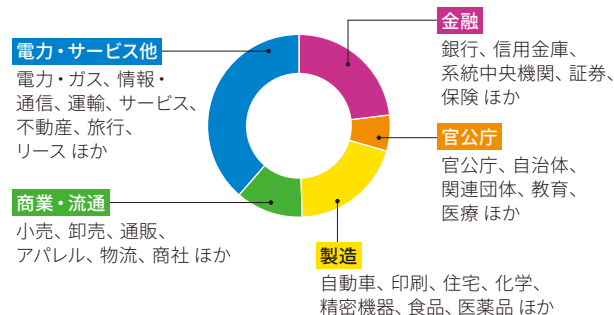
BIPROGYグループは、幅広い業界のお客様と長年にわたり信頼関係を築いています。さまざまなビジネスパートナーとの共創を通じて、業種・業界の垣根を越えた価値創出につなげています。

幅広い業種・業態のお客様

顧客数※1 約**5,000**社

※1 BIPROGY (株)、ユニアデックス (株) の合算値 (2025年度)

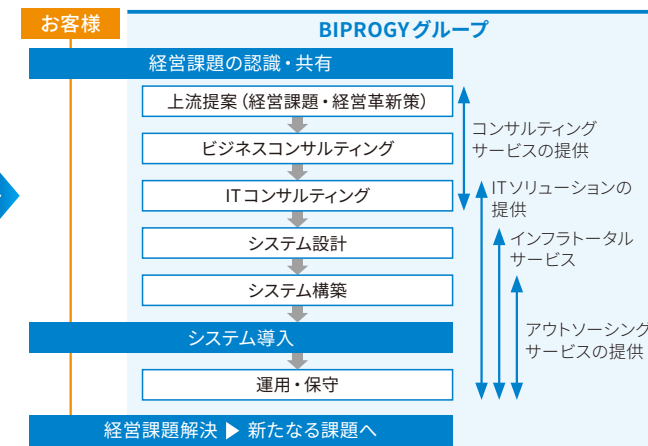
マーケット別売上構成比イメージ (2025年度)



ベンダーフリー＆ ワンストップの サポート力

当社グループは、特定の製品や技術に縛られないベンダーフリーの立場から、お客様にとって最適なICT環境を提供しています。コンサルティングからシステム設計・構築、運用・保守まで一貫して伴走し、お客様の課題解決に貢献しています。

ベンダーフリーの立場でお客様の課題解決に
最適なICT環境を提供



完遂する システム実装力

社会を動かすミッションクリティカルなシステム提供

数多くの **実装実績**

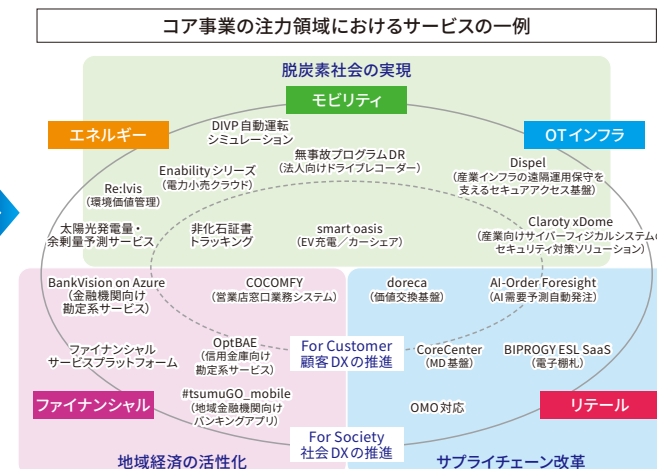
当社グループは、社会や企業活動を支える重要なシステムを数多く手がけてきました。安定稼働を続けながら、最新テクノロジーもキャッチアップし、進化を続けています。

- 世界初、Windowsでの“フルバンキング”勘定システム「BankVision」の稼働
- 国内初、パブリッククラウドでのフルバンキングシステム「BankVision on Azure」稼働
- 世界初、オープンシステムによる国内線旅客システムの稼働

新しいサービスを デザインし実現する力

当社グループは、これまで培ってきた業界知見や技術力に、社会変化への先見性・洞察力を掛け合わせることで、お客様や社会の新たな課題やニーズを捉え、新しいサービスを生み出しています。

これまでに培った知見や実績を活かしたサービスの提供



CEO メッセージ

社会から期待される会社で あり続けるために

社会実装力を磨き、
多様なステークホルダーとの共創を通じて
新たな価値を創出し続ける企業へ
進化していきます。

代表取締役社長
CEO

齊藤 昇



AIをはじめとする技術革新が加速し、社会や産業の構造は大きな転換期を迎えています。その中で私が最も大きな変化だと感じているのは、技術そのものではなく、私たちに期待される役割が大きく変わり始めていることです。システムを提供するだけでなく、お客様やパートナーと共に課題を見つけ、未来を構想し、その実現まで伴走する存在であることが求められています。

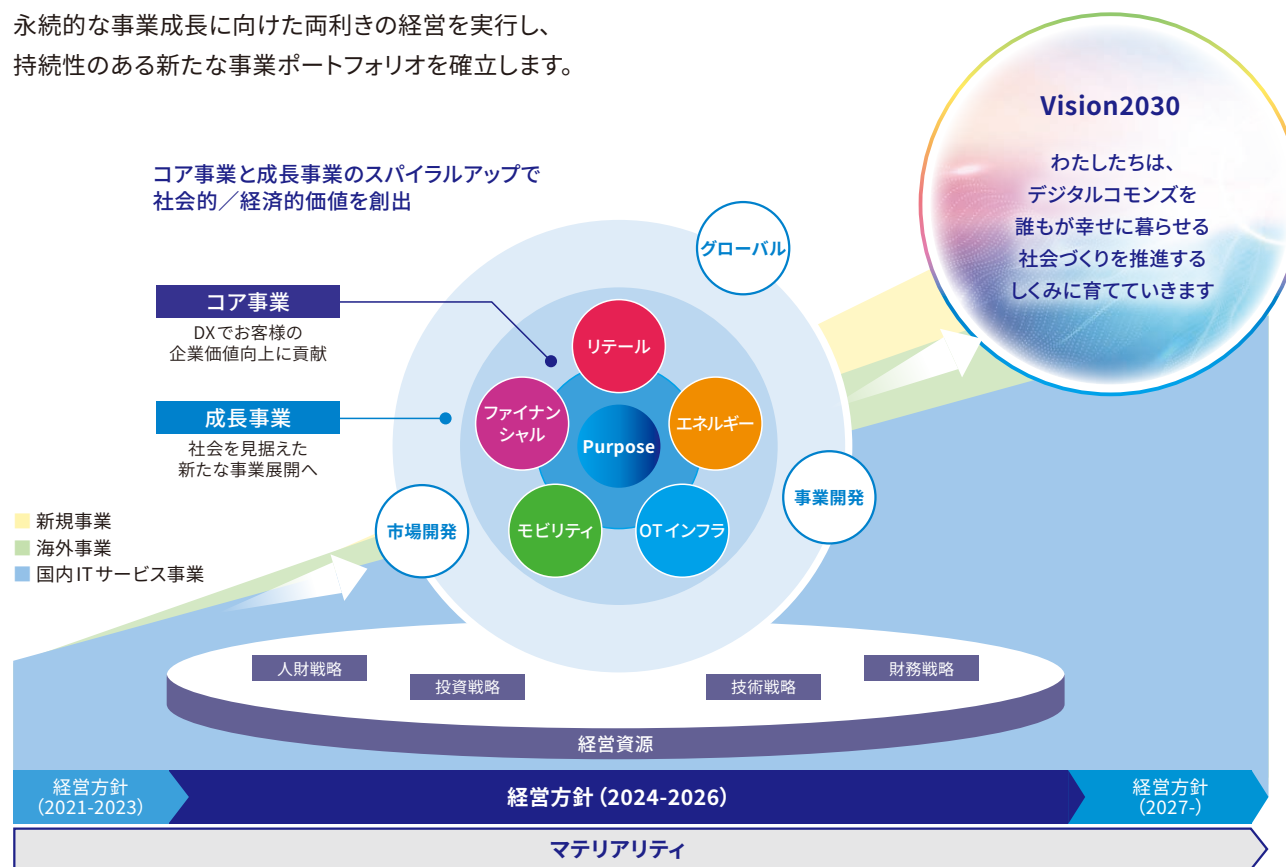
こうした変化は、私たちにとって新たな挑戦であると同時に、大きな成長の機会でもあります。私たちはお客様を含めたさまざまな価値共創パートナーと共に新たな価値を創出し続け、その積み重ねが持続的な企業価値向上につながると考えています。

「経営方針（2024-2026）」の進捗と 2025年度の振り返り

社長に就任して約2年が経ちました。この間、私が最も力を注いできたのは、「経営方針（2024-2026）」で掲げた方向性を社員一人ひとりの行動へ落とし込むことです。会社は一朝一夕には変わりません。しかし、この1年を振り返ると、社員一人ひとりの挑戦が少しずつ形になり、組織全体が同じ方向を向いて歩み始めた手応えを感じています。各組織では、お客様との対話を通じて課題を深く捉え、新たな提案へつな

Vision2030実現へ向けて

市場・顧客から「共に社会課題を解決したい企業」として想起される存在となり、「社会的価値」と「経済的価値」を創出し、企業価値1兆円の企業グループを目指します。持続的な事業成長に向けた両利きの経営を実行し、持続性のある新たな事業ポートフォリオを確立します。





げようとする動きが着実に広がっています。業績が堅調に推移していることも、こうした組織の変化が成果として現れ始めたものと感じています。

2025年度は、お客様のDX需要が引き続き堅調に推移する中で、計画を上回る成果を上げることができました。これは、お客様の経営課題や業務課題を深く理解し、「経営方針(2024-2026)」で掲げる注力領域を中心に提案力を磨いてきたことが実を結んだ結果だと考えています。また、注力領域の1つである「リテール」領域への取り組みをさらに加速するために、当社グループへ迎えたのがカタリナマーケティングジャパン(株)です。当社グループはこれまで、小売業のお客様に対して、マーチャンダイジングの基幹業務システムや、電子棚札、AI需要予測自動発注などの店舗系サービスなどを提供し、業務改革やDXを推進してきました。一方で、生活者との接点から得られるデータを活用し、マーケティング施策の実行や効果検証まで支援する領域には、さらに大きな可能性があると考えていました。カタリナマーケティングジャパンが持つデータ資産やマーケティング基盤と、私たちの社会実装力を組み合わせることで、企画から実行、効果検証まで、お客様、業界、

社会へと提供できる価値は大きく広がります。これは事業規模を拡大するためのM&Aではなく、共に描いたリテールの未来を社会に実装し、価値を循環させていくための戦略的な投資です。

事業環境の変化を、BIPROGYグループの成長機会へ

私たちを取り巻く事業環境は、かつてないスピードで変化しています。

AI技術の進展もあり、今後はお客様自身がシステムの開発・運用を内製化することも選択肢として広がってくると思います。この流れの中で、お客様の期待は、従来のシステム開発・運用そのものへの期待から、自社の事業をどう変革すべきか、その実現まで共に考え、伴走してほしいという期待へと変わってきています。正解が見えにくい時代だからこそ、技術を提供するだけではなく、お客様の事業や課題を深く理解し、共に未来を描く存在が求められているのです。

私は、この変化こそが当社グループにとって最大の成長機会だと考えています。私たちは長年、金融、流通、製造、社会インフラなど、多様な業界のお客様と共に歩み、それぞれの業務や現場に向き合い、深く理解しながら、社会を支えるシステムを構築してきました。その中で培ってきた知見とお客様との信頼関係は、当社グループの大きな財産です。お客様がシ

ステムの内製化を進めるとしたら、その内製化をサポートし、さらに高度化させていくパートナーがBIPROGYグループであると考えています。だからこそ、これからは「システムをつくる会社」から、「共に社会課題を解決し、新たな価値を創るパートナー」へ進化していかなければなりません。

私は、その中で当社グループの強みを最も発揮できるのが、「社会実装力」だと考えています。私が考える社会実装とは、新しい技術を導入することだけではありません。長年培ってきた業界知見やお客様との信頼関係を基盤に、お客様と共に課題を見つけ、構想を描き、それを現場で実現し、成果につなげること。そしてさらに次の価値へと発展させていく一連のプロセスのことです。システムを稼働させることがゴールではなく、お客様の事業や業務が実際に変わり、その変化が新たな成果につながるまで伴走することに価値があります。その過程では、お客様やパートナー、時には業界や地域の関係者の方々が持つ課題意識や思いを丁寧に引き出し、利害や制約を一つひとつ整えながら、現実動く仕組みへと結晶化していくことが重要になります。

AIでどのような価値を生み出せるか

AIは、私たちの仕事や社会を大きく変える可能性を持っています。しかし私は、AIそのものが当社グループの競争力を

生むとは考えていません。重要なのは、AIをどのように活用し、お客様や社会へ新たな価値を届けるかです。技術はあくまでも手段であり、その技術を通じてどのような価値を生み出せるかが、企業としての真の競争力になると考えています。

その考えのもと、当社グループでは、お客様への提供価値を高めるAIソリューション／サービスの拡大、開発プロセス改革を通じた開發生産性向上、そして社員一人ひとりの能力を引き出す業務プロセスの効率化・高度化という3つの視点からAI活用を進めています。その考えをグループ全体で実践する中核となるのが、2026年度に新設した全社横断組織の「AI CoE (AI Center of Excellence)」です。グループ全体の知見を集約し、技術検証にとどまらず、ユースケースの展開や人材育成、ガバナンス整備までを一体で推進しています。AIを現場で価値へとつなげる仕組みを築くことこそが、その役割です。

ただし、AIは大きな可能性を持つ一方、倫理や品質、セキュリティへの配慮も欠かせません。社会から信頼される技術であるためには、責任ある活用が前提です。私たちはAIの可能性を追求すると同時に、その活用を支えるルールやガバナンスも着実に整備し、安心して活用できる基盤づくりにも取り組んでいます。

私は、AIによって最も大きく変わるのは、人に求められる価値だと考えています。定型業務はAIが担い、人はお客様との対話を深め、本質的な課題を見極め、新たな価値を構想することにより多くの力を注ぐ。そのように、人がより付加価値の高い仕事へシフトできることこそが、AI活用の本質だと考えています。

私たちは、AIを活用しながら、人と技術、それぞれの強みを最大限に引き出し、お客様の変革を実現していきます。社会実装力をさらに磨き、お客様や社会に新しい価値を届け続ける。それが、私たちが目指すAI活用です。

AI時代でも変わらない競争力は、「人」

私は、AIが進化する時代だからこそ、企業の競争力を決めるのは技術ではなく、「人」だと考えています。技術は、いずれ誰もが活用できるようになります。だからこそ、その技術を使って何を考え、どのような価値を生み出すのか。その違いを生み出すのは、一人ひとりの社員です。

私が社員によく伝えているのは、「魅力的な人になってほしい」ということです。専門性を磨くことはもちろん大切です。しかし、それだけでは十分ではありません。変化を前向きに受け止め、自ら学び、挑戦し、多様な人と協働しながら新しい価値を生み出せる人であってほしい。そのような社員が増えることが、当社グループの魅力と競争力につながると考えています。

私たちは人材を「価値創造の主体」と位置づけています。社員が自らキャリアを描き、新しいテーマへ挑戦できる環境や制度、文化を整えることは、人への投資であると同時に、会社の未来への投資でもあります。失敗を恐れず挑戦すること、その挑戦を後押しする風土があってこそ、変革は生まれます。

私はできるだけ社員と直接対話する機会を大切にしています。例えば社員食堂では一緒に昼食を取り、若手社員とも率直に話をします。現場でどのような挑戦が行われ、どのような課題を感じているのか。その声に耳を傾けることは、経営にとっても大切な学びです。同時に、社員一人ひとりが会社の未来を真剣に考えていることを実感するたびに、この会社の可能性を強く感じます。

オープンイノベーションを 価値創出の源泉に

当社グループは、オープンイノベーションにも継続して取り組んできました。外部の知見や技術、スタートアップ、大学、研究機関、パートナー企業などの力を取り入れ、価値創出につなげるのが重要です。スタートアップ投資、北米CVCファンド、CVC共創コミュニティ、大学との連携など、外部エコシステムとの接点を広げてきました。これらは単なる投資活動ではなく、人材育成や事業創出の機会でもあります。外の世界に触れ、自分たちの現在地を知ることで、社員は成長し、会社も変化していきます。

経団連スタートアップ委員会での活動^{*1}も、こうした姿勢の延長線上にあります。日本は経済規模の面では大きな存在感を持つ一方、イノベーション創出力や将来の成長力には課題があります。その状況を変えるためには、スタートアップと

問題意識から社会実装へ そして、次の価値へ



の連携が欠かせません。当社グループとしても、スタートアップと大企業、地域、行政、大学などをつなぎ、ビジネスエコシステムの中で新たな価値を創出しています。失敗する取り組みも当然あります。しかし、挑戦しなければ新しい価値は生まれません。挑戦し、学び、次に生かす。その繰り返しが、新たな価値創出の源泉になると考えています。

多様な価値観が交わることで、イノベーションは生まれます。私は挑戦する人が集い、成長し、その挑戦が次の挑戦を生む会社であり続けたいと考えています。

※1 2026年6月に一般社団法人日本経済団体連合会（経団連）のスタートアップ委員長にCEO齊藤 昇が就任。

社会から期待され続けるために

「Vision2030」に向けて掲げた「企業価値1兆円」という目標は、多様なステークホルダーと新たな価値を共創していくために、相応の価値ある企業として社会から期待される存在でありたいという経営の強い意志でもあります。お客様から「BIPROGYグループと一緒に未来を創りたい」と思っていただけのこと。社員が「この会社で挑戦したい」と感じられること。パートナーから「共に新しい価値を生み出したい」と信頼されること。そして投資家の皆様から「将来への成長が期待できる会社」と評価していただくこと。こうした期待に応え続けることが、企業価値を高める確かな道だと考えています。

私たちは、デジタルコモンズ^{※2}を通じて社会的価値を創出



し続ける企業を目指しています。その実現に向けて、自らの先見性と洞察力を磨くだけではなく、お客様やパートナー、社会の中にある課題意識や未来への兆しを共に見だし、互いに高め合いながら、新しい価値を社会へ届け続けていきます。

AIの急速な進化により、資本市場からの期待や評価軸は変化しています。しかし当社グループは、変化の激しいIT産業の中で、これまでも変わり続けながら成長してきました。そしてこれからもお客様や社会にとっての価値が巡り続けるような未来をデザインし、私たち自身も変化していきます。社員一人ひとりが輝き、お客様やパートナーと共に新しい価値を創り、その成果を社会に広げていく。BIPROGYグループはこれからも、社会から期待される企業であり続けたいと考えています。

※2 デジタルコモンズ：持続可能な社会づくりのため、社会に存在する有形無形の財をデジタルの力で追加コストの少ない共有財として広く活用可能とし、共創による価値を継続的に創出するコミュニティや仕組み。（P.13 デジタルコモンズ）